第一話　湖南で働く

シュウジは、大学を卒業後、栗東湖南ジャンクション近くの工業団地に立地する企業のＩＴ部門に勤めている。今朝、永年勤続者表彰を受けた。工業団地の隣には、内陸型国際総合物流ターミナルが整備され、国内外の貨物の中継拠点となっている。シュウジの職場からもターミナル内の慌ただしい様子が見える。ターミナルの職員に混じって生き物のように動き回るロボットやオートドライブ型トラックを眺めるシュウジの口からは「この十年でえらい発展したもんやな。」とすっかり板についた関西弁がこぼれた。入社した頃、職場の周辺は立地する企業もまばらだったが、栗東湖南ジャンクションや菩提寺スマートインターの開通後しばらくすると、京阪神・中部北陸方面へのアクセス条件の優位性が評価され、企業立地が相次いだ。

シュウジの勤める企業では永年勤続者は１週間の休暇を取得することができる。この休暇で海外に行く社員も多いが、最近は市内の環境や森林ボランティアのプログラムが充実しており、それらに参加することも盛んになっている。

僕の休暇中の予定は、もう決まっている。現在産休中の妻のユウコとともに、三人目の出産に向けた準備だ。まず、ベビーベットの組み立てをしよう。ベビーバスとベビーカーもきれいにしなあかん。単なる掃除や片づけは気が乗らないが、誕生を迎える準備はこころが踊る。

ユウコの体調が良ければ、一日ぐらいは国宝善水寺周辺を歩き「十二坊温泉ゆらら」でのんびりしようと考えている。

ユウコも頼りになるパートナーに仕事の引き継ぎを済ませ、ゆっくりと産休、育休に入ることができる。

ユウコの口から共同経営者のマリさんとともに、カフェを起業したいと聞いた時には、びっくりしたものだ。東海道の空き家だった町家を借り、店舗用に改築するとなると素人がどこまでできるのか心配だったが、湖南市には、起業のコーディネーターがいて、親身に相談、支援してくれたおかげでオープンにこぎつける事ができた。街道の街並みに佇む町家カフェは、厳選した豆で入れた美味しいコーヒーと手作り和菓子で人気となった。今では、近所の若い女性から高齢のご夫婦までいろいろな年代の常連客が集っている。

湖南市は、起業家を応援してくれるメニューが多く、起業をめざして移住を考えている人が、ユウコのところによく相談にきている。

東海道には、カフェだけでなく、世界中に顧客がいる企業もあれば、地域とのつながりを大切にした企業など、多様で魅力的な企業が町家を改装して進出している。シュウジの取引先も東海道に事業所があり、訪ねたことがあるが、働く人の増加に伴って昼間の人通りが増えていることに驚いた。町家カフェがにぎわうのもうなずける。

第二話　湖南で育つ

桜が咲き誇る入学シーズンの春。バックを背負ったアヤが、うれしくてしょうがない様子で、友達と手をつないでいた。僕もユウコも成長したアヤの姿がとても誇らしかった。

これからの小学校生活、友達関係や勉強など親としてどのようなサポートが必要になるのか、少し不安もあったが、こればかりは、子も親も経験してみないとわからない。全ての学校にＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）などの相談員が配置されているから、いざとなったら相談できると思うと安心だった。それに、教科書として配布されるタブレットを使って、担任の先生との連絡がとてもスムーズになっていて親としてはうれしいかぎりだ。

アヤはこれまで、一日をタクヤとともに認定こども園*で過していたが、小学生になってからは学校から直接、学童保育所か地域まちづくり協議会が運営する「放課後子ども教室」に行く。湖南市は多文化共生が一層進んでおり、認定子ども園にも、放課後子ども教室にも外国人の先生がいて英語を教えている。湖南市には、英語やポルトガル語の読み書き、会話ができる子どもが多い。僕も外国語は子どもたちに敵わない。

少し前まで、「小一の壁」という言葉をよく耳にしたが、今の湖南市には無縁の言葉だ。僕もユウコも働いており、特にユウコは、勤務時間が週によって変わるシフト制である。これまでは、認定こども園*での延長保育やユウコの両親に助けられて、仕事と育児が両立できた。今では、認定こども園*に加えて学童保育所と地域の高齢者が僕たち家族を支えてくれている。

「放課後子ども教室」は地域の高齢者が中心になって、子どもたちの居場所づくりに取り組んでくれているものだ。地域の伝統芸能に触れる時間もあり、将棋、ピアノ、宿題も教えてくれる。子どもたちにとっては、誰もが先生であり、親戚のような存在だ。中学生や高校生になっても、悩み事があると相談に訪れる子どもたちもいるようだ。ついでに、小学生の遊び相手にもなってくれるため、アヤは彼らの訪問を楽しみにしている。ユウコの両親も「放課後子ども教室」の指導員として活躍している。

もうすぐ生まれる三人目の子どもは、最初の半年をユウコが、残りの半年を僕が育児休暇を取る予定だ。アヤのときは一月しか休暇が取れなかったが、タクヤの時は半年いっしょに過すことができ、子育ての楽しさを少しだけ感じることができた。僕が育児休暇を取得して以降、職場内の男性の同僚、後輩たちも育児休暇を取得するようになった。ちょうど、その頃から、新卒の内定辞退が激減したと聞いている。企業として優秀な人材を確保する上でも、子育てへの支援が重要なのだ。タクヤが産まれる前には、子育て支援センターに通って、熱が出た時の対処法や体調の変化にいち早く気付く方法を教えてもらったおかげで、一人前の子育てはできる自信がある。だけど、今回も子育て支援センターには行ってみるつもりだ。集っている育児休業中の父親たちと交流し、互いに子育ての楽しさや悩みを分かちあう喜びを知ったからだ。僕は将来、間違いなくユウコの両親のように近所の子どもたちの成長を見守るだろう。

第三話　湖南の暮らし

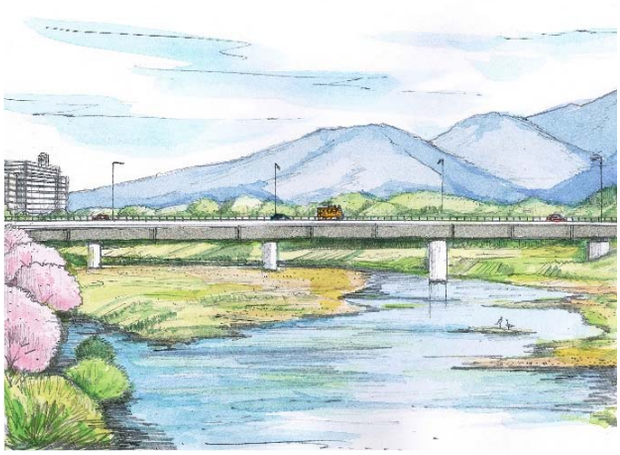
産休に入ってからもユウコは町家カフェのことが気になるようなので、今日は家族四人で東海道に出かけることにした。家の近くから水素で走るコミュニティバス「めぐるくん」に乗る。タクヤはいつもバスに乗って最前列に座るのを楽しみにしている。運転席がないため最前列はパノラマシートになっているのだ。僕もバスの高い車窓から町を眺めていると、新しい発見がある。また一つ新しい水素ステーションができている。湖南市では野洲川の水を太陽光発電の余剰電力で電気分解し、水素としてエネルギーを蓄えている。「めぐるくん」は、おひさまと野洲川とロボット技術が走らせているのだ。市内には「めぐるくん」だけでなく、利用者が指定した時間に走るオートドライブ型タクシーが走っている。こちらのシステムは、シュウジと同僚が開発したものであり、ぜひとも、多くの人に便利さを体験してもらいたいと思い、地域まちづくり協議会とシュウジたちが連携し、導入時に高齢者向けの乗車体験を重ねたところ、すっかり受け入れられ、好評を得ている。

「めぐるくん」の乗り継ぎ拠点にもなっている国道1号バイパス沿いの道の駅は、今日も多くの人でにぎわっている。下田ナスや弥平トウガラシをはじめとする四季折々の新鮮なブランド野菜が手に入るだけでなく、農家から直接、美味しい調理法を聞くことができたり、農業体験もできることが評判で、市内外から多くの人が訪れている。

三雲駅近くでバスを降り、町家カフェまで少し歩くことにした。三雲駅の駅舎が整備されたり、周辺で働く人が増えたこともあり、周辺には、飲食店などのお店が増えている。夜遅くまで楽しめる人気のお店もあるそうだ。

ちょうど、京都駅発の草津線が着いたところで、駅からは大勢の人が出てきた。そうだ！今日は「あげあげサミット2025」だった。このイベントはすっかり滋賀を代表するイベントとして定着している。

ユウコとマリさんの町家カフェの前にはレンタサイクルが停まっている。複線化によって草津線の運行本数が増えたせいか、大阪や京都から訪れる観光客が増えている。湖南市では、観光客に公共交通機関とレンタサイクルを利用してもらえるように共通ＩＣカードを使えるようにしたり、インターネットで予約ができたり、スマートフォンが電子鍵として利用できるなど工夫している。



町家カフェの引き戸を開けると、今日も席のほとんどが埋まっている。マリさんの「いらっしゃいませ」の声が元気良く飛んできた。その笑顔と声にユウコも安心したようだ。

子どもたちは、空き家を活用した多目的オープンスペースで「あげあげサミット」と連携して実施されているイベントや、陶芸や絵画などのワークショップが気になってソワソワしている。常連のお客さんと話し込むユウコを町家カフェに残し、僕はアヤとタクヤを連れていつも以上に行き交う人でにぎわう東海道に出た。